

山梨県内桂川流域現地調査を終えての感想等

委員	生活排水処理対策について	森林対策について	その他	2 現地調査全体の感想など
井上伸康	<p>今回視察した山梨県では、市街地での下水道整備は概ね進んでいるが、各自治体の面積が広大であることや集落が点在している為、さらに工事費が割高になる事などから、工事が進んでいないのが現状のようだ。言うまでもなく相模川の集水域の8割は山梨県内で、その水は神奈川県内に流入している。このため、相模湖上流の排水対策等は重要である。</p> <p>流城市町村の財政力等により下水道整備の進捗に影響があるのは当然であるが、下水道施設や高度合併浄化槽等が整備されれば、汲み取りやトイレ等の除去されない。汚濁は、汲み取りをしていない家庭や単独浄化槽、および生活雑排水を小河川に垂れ流ししていること等が主な原因だ。散在している家屋等で単独浄化槽や汲み取りをしていない家庭からの処理水を、神奈川県内で施行している高度合併浄化槽に変える方策や導入を山梨県側に推奨したと思う。</p> <p>桂川清流センターの説明によると稼働率は低いので管渠整備が高コストだ。しかし問題は財源だ。両県にまたがる問題でもある。現在、「桂川・相模川流域協議会」等が設置され、多方面にわたって支援助けられている。この会等で、財源確保の方策や力し出来る事から実施することが、河川（湖）浄化対策の一助となるだろう。</p>	<p>上野原管内の相模川や多摩川流域の約30%の森林は整備がされているという。国有林や県有林の手入れは進んでいるが、私有林は、所有者が不明であったり、境界が確定していないため手入れが進んでいないという。「荒廃林の手入れをするのには、林道が整備されていないと手入れができない。良く手入れをした山林からは、良い水と良い木を生み出してくれる。手入れを怠ると山は荒れ水は濁れてしまう。間伐材を搬出し製品にしても経済的にはバラランスがとれない。複層林や学校林の整備などの取組みを行っている。暗い森を明るい森に変えたい。」このような現状や問題等を話された。問題を抱えながらも森林組合では積極的な取り組みをしている。しかし、事業を推進するには諸問題の解決をしなければならない。山梨県において協力を進めたい。山林所有者の調べや境界の確定作業等は、行政側の協力や情報などを解決できることにより、販路拡大に繋げることを互いに交換する。諸問題が解決し森林整備が進めば、両県に良い結果を生むことになる。問題解決のために県境を越えて積極的に協力するべきである。</p> <p>東京都でも鹿対策を講じているが、奥多摩方面から徐々に上野原側に来つたという。神奈川県の被害状況を目的の当たりにしている。被害防止にも先手を打つ必要を感じずにはいられない。</p>	<p>誰もが汚水を河川等に垂れ流ししても良いとは思っていないはずだ。下水道が整備された文化的な生活を住民は希求していると思うが、為政者等の考え方や財源の確保によって整備に違いが生じる。生活排水対策や森林整備を図る為には、財源確保をしなければならない。</p> <p>視察した組合等では、財源不足で整備が思うよう進まないようだ。神奈川県からの財政援助には望んでいるような発言があったが、財政援助には県民の理解が必要で要望に添えるのには簡単ではないと思う。いずれにしても自治体間で話し合っ協力できることがあれば互いに協力したら良いと思います。</p>	<p>桂川流域地町村の主だった自治体の下水道特別会計や管渠整備の内容、今後の整備計画など合わせて説明があれば、なお良かったと思う。現場視察は実態把握のため必要だ。上野原市内などの視察場所での多くの時間を割いてほしいかった。</p>
北村多洋一	<p>実際に上流域（山梨県側）を視察しての生活排水処理対策の印象</p> <ol style="list-style-type: none"> 桂川流域は、地域特性から山峡で暮らす人が多く、飲料水の汚染がさほど深刻ではないことから下水道対策への意識が薄いこと。 従い、生活排水処理対策として必要な下水道施設は、コストや手間がかかっても加わり、一部の市街地を除きあまり進んでいないこと。 そのため、生活排水が桂川に流れ込んでいる箇所も多くなり、その水がそのまま下流の相模湖へ流れ、汚染の原因の一つになっていることが良くわかった。 	<ol style="list-style-type: none"> 視察した森林管理組合は、他の地域と同様、慢性的な資金不足や高齢化による労働力不足の問題があるものの、今までの管理手法を改善する等、もう少し自助努力が必要ではと思われた。なぜなら、森林管理に携わる人の意識が、神奈川県側に資金援助を期待している面が強いことを感じたから。 山梨県側上流域は、道志のポラテンディア活動地域を除き、山林の荒廃がかなり進んでいることわかった。 森林対策への山梨県や市町村の取組みは、財政規模に比較し、行うべき施策が大規模であるだけに、実現までに要する期間や資金面からもかなり困難な取り組みであると感じた。 	<p>相模湖の水源が「山中湖」であることや源流の印象(想定外)に驚きました。</p>	<p>水源環境を保全するための問題点として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 下流域（神奈川側）は、いのちの源である飲用水の汚染が問題となっており、解決のためには上流域（山梨側）の環境保全対策が重要であること。 上流域の環境保全対策として必要な、森林保全対策や生活排水処理対策を講ずるためには資金や労働力(特に森林管理側)が不足していること。 それぞれの問題点を解決するためには、神奈川県・山梨県で生活する人々が協働で取り組まなければ解決できないこと。 <p>そのためには、先ずできることから早急に対応して行動を起こす時期に来ていると痛感しました。</p>

委員	生活排水処理対策について	森林対策について	その他	2 現地調査全体の感想など
倉橋満知子	<p>桂川流域の排水処理対策は山間地形にも影響され、市町村の格差があり桂川清流センター地域は遅れている。見守った桂川清流センターは処理能力日量1.5万トンの内、現在5千トンを処理しているが、処理量不足により継続運転ができていない。また、今後、笹素、リンは除去出来ていない。また、今後、併浄化槽地域の増加になる。そのため、下水道からの窒素、リンの除去に不安が残る。笹素、リンの高度処理の対策が現時点から必要である。</p>	<p>山梨県の森林も神奈川川同様、木材低迷で私有林の手入れ不足による荒廃が進んでいる。その上、持ち主不明で、手を付けることも出来ない林もあり、全体の管理が出来ない難しさも課題となっている。桂川流域には4つの森林組合がある。見守った上野原の北部留森林組合は積極的に森林管理を続けているが、私有林の比率が多く、荒廃による溜れ状態の危険性を目的に、改め相模川の水量を8割を供給している山梨の森林を桂川流域20万の人口で支える難しさ、下流域の神奈川で支えること、都市部での木材使用が必要であることを実感した。</p>	<p>相模川の源流が山中湖の溜れた水路だったことと、一様に落胆。桂川上流部は富士山や富士五湖、忍野八海と有名な観光地で、年間を通じて大勢の観光客でにぎわっている。そのついでとして、ごみ問題が溜まり、崖の上からは大量に捨てられ、山の中はごみの山、と捨てる側の追いかけてこである。山梨県はごみの問題が大きな問題である。</p>	<p>一日で桂川流域を把握することは難しいが、神奈川県の水は相模川、酒匂川も、富士山から始まることと下流まできれいに安全においしく運ぶために、神奈川県民は何を為すべきか、考えようになつた。</p>
木平勇吉	<p>桂川清流センターでの施設は立派でよく管理されていることがわかった。大変に良い機会であった。下水道への連結率（利用率）を高めるように山梨県はPR・啓発活動をする必要がある。</p>	<p>雑木やつるを切り、間伐を進める時に、「生物多样性」を重視しなければならない。なぜ里山を整備するかの目的が不明確である。森林を、努力とお金をかけてきれいにすることの意義を説明する必要がある。</p>	<p>桂川・相模川協議会の「民」の活動を知らなかった。あるいは県民と行政との役割分担を知りたい。</p>	<p>今回は多くのことを学ぶことが出来た。説明者や資料がととのつていて、よく理解できた。今後の神奈川県内の現地調査の場所、ルート、事項などは行政が決めるのではなく、県民委員自らが決める必要がある。そうでないと、偏った理解となり、県民会議は信頼されないことになる。成功例をみるのではなく、不成功例、問題例、難点を調べるのが、県民評価の役割である。</p>
小林信雄	<p>桂川流域10町村における排水処理施設の整備データに生活排水クリン処理率30%の地域があまり普及率の低さを懸念しましたが、現地を視察して普及が進まない地域的な事情、急傾斜地の住宅、人口の減少などが深刻であることを理解しました。しかし、桂川流域の排水処理整備は相模湖アオコ発生抑制対策などの一つの手段でもあり、更には、汚水・非水処理設備の普及は文化生活水準の向上を高める呼びかけが必要で、特に著しく水質汚染に起因する地域・箇所などに対しては、水質利用度が高い神奈川県や東京電力（水力発電に必要）からもその事情を勘案して応じた支援が必要であると思います。</p>	<p>上野原市の「八重山・五感の森」の視察では、人手不足で間伐が進まず荒廃した暗い森林を見学しました。今や森林荒廃と言えれば不足している感があります。国でも以前から問題視しながら、人材育成対策、機械化の導入など進捗・普及速度が遅く成果が現れていないように思われます。一方に就職難の雇用問題がありながら、森林整備に対する経済的・将来展望の魅力が乏しい点がネックになっていると思います。当面の対策としては、神奈川と山梨の両県共に、間伐就労・木材産業への魅力ある対策・支援が必要と思われ、これらから足元の対策・支援だけでなく、持続可能な木材資源の将来マーケットとしてバイオマスエネルギー化、木質のプラスチック化などコラボレーションに取り組み組みあわせが必要であると考えます。特に最近、事業用火力行発電所や製鉄所が大量の間伐材を燃料に用いる計画を進めている情報があります。</p>	<p>特別対策事業10「相模川水系流域環境共同調査の実施」に関連して、既に神奈川、山梨の両県で進められている桂川・相模川水系の「水質保全連絡会議」、「桂川・相模川流域環境保全行動推進事業」、「桂川・相模川流域ネットワーク」などがあり、水質測定も行われているようです。これらとの連携、重複についても十分配慮する必要があります。また、中部地方には、長野県と愛知県の県境を越える矢作川があり、この水系流域でも河川水利用や森林の共同保全管理計画（UNEP）の河川、湖の流域管理データベーススタディに取り上げられたとの情報があります。この矢作川流域の例をも参考にすることがあると思われれます。</p>	<p>今回、桂川流域全体を視察できたこと大変勉強になりました。「相模川水系流域環境共同調査の実施」事業は、神奈川県・山梨・相模川の両県で一つの土俵として調査、監視し、汚染防止対策を進める意味で大変有意義であると思います。水質調査、水量調査データから汚染が著しい河川など優先順位を設定した上で、両県で応じた対策を実施していくことが望ましいと考えます。視察事前配布資料の桂川・相模川水系の水質データによりBOD値、COD値が特に高く測定されています。原因調査や対策の検討が必要ではないかと思えます。</p>

委員	生活排水処理対策について	森林対策について	その他
新堀豊彦	<p>かなり心配しなければならぬものがあるという感じが強かった。桂川清流センターは、りっぱな施設であり、十分それなりに対応しているが、膨大な流域全体は、カバーしきれていない。住民の皆様に対する、生活排水についての理解をより求めるためのPRを、神奈川県からもやってく必要があるが、それに伴う様々な財政支出に關しての対応がどうしても必要とならう。</p>	<p>神奈川県とよく似た状態に、私有林はおかれています。私有林が多いことは、山梨の特色であるが、私有林の杉林は、上野原、北都留森林組合の話と、やはり深刻な状況のようである。神奈川県からお手伝い出来ることは何か、早急かつ、真摯に取り組みむべきではないかと感じました。</p>	<p>2 現地調査全体の感想など</p> <p>ごく一部の状況を見たにすぎないが、広大な桂川流域を理解したとは思われないが、きわめて多くの示唆を与えられ、大変よい勉強になったと思う。出来ればもう一度よく整備された森林や間伐材の利用状況などを見ることが出来ると有り難い。</p>
高橋弘二	<p>1. 生活排水クリン処理率目標値は妥当か (1) 21年3月現在の平均58.8%であり、25年度整備目標は66.0%であるが、このときの桂川橋における水質(特にリン)の予測値は? アオコ発生を防ぐにはリン酸リンを0.05mg/l以下にしなければならぬとの報告があり、0.05mg/l以下にならないようであれば、整備目標値を上げる必要がある。 (2) あるいは、高度処理を行う必要があるかどうか、検討が必要になる。 (・流域下水道だけ、あるいは下水道に加えて合併処理浄化槽も) 見学した桂川流域下水道は、処理能力に対して流入水量が少ないうので、放流水の水質は良好であったが、設計流量が流入したとき放流水の水質が今のようにはいかない。 2. 整備目標値の達成が確実か 下水道幹線ができて、個人負担の大きい家庭から幹線への接続が進まない現状が各地で問題になってきている。どうやって接続の徹底を図るかが課題である。 3. 合併処理浄化槽適用区域の拡大 4. 相模原市では、「流域下水道地域」と「合併処理浄化槽地域」の見直しを行った結果、「合併処理浄化槽地域」に切り替えたことで建設費を大幅に削減することができた。この手法(ノウハウ)を桂川流域に適用することを望む。 5. 市町村設置型合併処理浄化槽の設置 市町村設置型浄化槽を設置することは、自治体主導で確実な整備を進めることができる。水源環境保全税を助成金・補助金とすることで、生活排水クリン処理率の目標値を確実に達成することを検討してもらいたい。 6. 流域下水道の維持管理 神奈川県と違って山間地が多く、下水道管はアップダウンが多いことが推定される。管渠の維持管理もかかることが予想されるので、“立派な処理場”の維持管理だけでなく、上流側(管渠)の適切な管理が望まれる。</p>	<p>相模川の源流は山中湖といわれているが、見学時には山中湖から桂川へは一滴の水も流れていなかった。資料15によれば、山中湖から流れ出る流量の記載はない。大きな“水がめ”に見える山中湖は、水を集めてもほとんどが湖底から浸みこんで忍野八海などから湧出しているのだろうか。西湖、河口湖も同様で流出水量は多くない。資料15によれば、大月橋での流量が3.13m³/sで、桂川橋が28.55m³/sである。途中、流入する小河川があるが小流量である。どこで増えるのか?(深城ダム貯水池?)</p>	<p>百蔵浄水場を見学したが、完成して間もないし給水地域が限られている。 これまでは、桂川流域の住民のほとんどが生活用水を桂川に頼ることなく井戸水、沢水を使用してきたため、「川をきれいにしよう、川の水をきれいに保とう」といった意識が薄いのが現状のようだった。 神奈川県民の水源地であるということを意識してもらったためにも、水源環境保全税を使った意識の啓発・PRが必要と感じた。 今度の見学は、山中湖、河口湖、猿橋など“観光地めぐり”の感があつたが、神奈川県民も桂川流域は観光地であると同時に、相模川の水源地であるとの認識をしっかりと持ちつ必要がある。</p>

委員	生活排水処理対策について	森林対策について	その他	2 現地調査全体の感想など
高橋二三代	<p>山中湖村や富士河口湖町等の生活排水処理施設整備状況は、同県内の他市に比べ、高い数値にあります。よって、湖水の質も改善されています。桂川の回りの生活環境を良くする事がやがては、桂川、相模川の水质改善にも繋がります。協議会の意見交換や情報交換は大切ですが、この税を充てるのは尚早かと思えます。</p>	<p>森林荒廃の悩みは何処も同じであると感じています。特に手付かずの民有林に関しては、持ち主不明によって対策の遅れが原因であると感じました。災害を未然に防ぐためにも、自然環境保全のためにも相続関係の法律の改正が急務だと思います。国への働きかけをお願いします。</p>	<p>水(河川)は流れてこそ、その命を輝かせるものです。できる限り、淀みなく流れるため努力をしましょう。ダム湖のあり方が非常に重く、その水質改善に多くの英知を持って取り組みを更に強く議論したいと思えます。</p>	<p>山梨県の方々の熱いエネルギーを感じました。視察ラスタの所では、もつと時間が欲しかったと思います。山林荒廃は悲惨であり、その対処法の一環を先方の方も見えて欲しかったのだと思います。今後折に触れ、相互のミニ集会など持てたらと思います。</p>
増田清美	<p>資料9の生活排水処理施設整備の実施状況を見ると、数字的には目標を達しているが、課題の中に人口5~10万人の自治体では整備率が全国平均を下回っている、とある。数字だけでは判断できないが、上流域の汚濁は当然のことながら下流域の水质或いは、流域全体への影響となり、流域全体を一つとして捉えていかねば、水質浄化に繋がらない。また実施状況の中で人口の割には処理率が低い大月市は住民意識が低いのか整備が進まないのか判らないが、実態を把握して対策を講じることができないかと思う。</p>	<p>山梨県は国有林と私有林面積がほぼ同等であり、北都留森林組合関係者から私有林の所有者が判らず手入入れが出来ないと現場で話聞いたが、森林整備の一つの課題になっていると感じた。条例などで法の縛りを緩和することはないか。条例、また、FSC森林管理認証を取得し木材もブランドという付加価値がついているが、広域連携で流通・販売が機能する仕組みを作るのも販路拡大に繋がると一つのつづつ方法ではないか。一方で、県民に対して県産材のブランドド木材を利用するメリットを具体的にアピールするのも必要ではないか。</p>	<p>1日で桂川流域を回れるように工程を組んで頂いた事務局担当者のご苦勞に感謝致します。百蔵浄水場、桂川清流センターでは、職員の方から熱心に説明をして頂いたが、資料やパネル説明だけでは現地調査として物足りなかつた。また、北都留森林組合の方々と共に森の中に入つて現状を伺ったが、予定されていた場所が見られず残念であった。課題として資金や人材面など今後どう広域的に繋げていくかとも論じる必要があるのではないかと思う。</p>	<p>先ず、最初に訪れた山中湖の桂川への流出口。川幅も狭く水も無く意表を突かれた。猿橋は自由散策であったが、ある委員の案内で川岸近くまで下りて行くと、崖で隠れていたが道路から投げ込まれたであろうゴミが川岸に散乱している。こういう実態を見るのも調査ではないだろうか。今回のコースには入っていないが、忍野八海周辺の民家から小川に家庭排水が直に流れているのを見たことがある。数値での判断も大事だが、汚染現場の実態を把握するのも委員の役目と感じた。</p>
柳川三郎	<p>桂川流域10市町村の平成20年度の生活排水処理施設整備の実施状況の平成25年度には処理率58.8%であり、5年後の平成25年度には整備目標を66%にしています。とくに道志村は110%を目標に掲げて達成を目標としています。相模川水系の上流、桂川流域における水質汚濁負荷の軽減への努力は着実に向上しています。20年度から水質汚濁負荷調査及び窒素、リン等の排出源調査を県外上流域の自治体等と協議を積み上げて実効を図っており今後期待が高まります。</p>	<p>山梨県上野原市の北都留森林組合へ視察において、森を中心とした持続可能な流域循環型産業の取組を初めとして諸活動を山梨県に実施すべきことと市民・事業者・行政が一体的に実施すべきこととを努力を継続して行っていることが現地から見ることができました。森林組合の収支バランスが厳しい現状をもち知ることができました。神奈川・山梨両県による「私有林(人工林)現況調査」が19年、20年において、調査対象森林面積の59%が非常に込み合っている荒廃林の結果であった。両県で共同して対策を講じていくべきです。</p>	<p>東京電力と神奈川県の水源である相模川水系の上流、桂川流域が密接にかかわっている事実を、桂川流域に多額の発電設備があることも持つ意味と流域に多数の取水専用管があることとが非常に参考になる事実でございました。今回の調査で私に把握することのできることもございました。今後、桂川流域が密接にかかわっている事実を、桂川流域に多額の発電設備があることも持つ意味と流域に多数の取水専用管があることとが非常に参考になる事実でございました。</p>	<p>山中湖・河口湖の桂川水源を視察しましたが人工的な取水であることに驚きました。今回は忍野には視察はしませんでした。忍野の清き流しは、神奈川県の水源地の主要な地区において下水道の整備への着実な取り組みを知ることができました。下水道整備は費用対効果の研究が重要で神奈川県と同じように進捗を期待してまいります。</p>

山梨県内桂川流域 市町村別・所有形態別森林面積

(単位：ha)

市町村名	国有林	県有林	市町村有林等	林業公社林等	私有林				合計
					総計 (A)	Aのうち 人工林 (B)	Bのうち 荒廃林 (C)	人工林 荒廃率 (C/B)	
富士吉田市	14	5,447	1,639	37	1,393	1,213	1,092	90%	8,530
都留市	115	5,992	903	1,006	5,598	3,467	2,478	71%	13,614
大月市	207	11,350	1,097	1,937	9,780	3,949	1,338	34%	24,371
上野原市	184	1,329	516	2,150	9,848	5,123	2,242	44%	14,027
道志村	0	43	3,004	458	3,942	2,017	1,117	55%	7,447
西桂町	0	417	4	50	731	590	421	71%	1,202
忍野村	0	0	390	0	964	828	685	83%	1,354
山中湖村	0	1,344	311	0	1,386	930	733	79%	3,041
鳴沢村	0	4,879	413	0	625	403	369	92%	5,917
富士河口湖町	0	7,015	1,216	278	2,987	2,203	1,753	80%	11,496
小菅村	0	0	0	300	362	133	112	84%	662
合計	520	37,816	9,493	6,216	37,616	20,855	12,337	59%	91,661

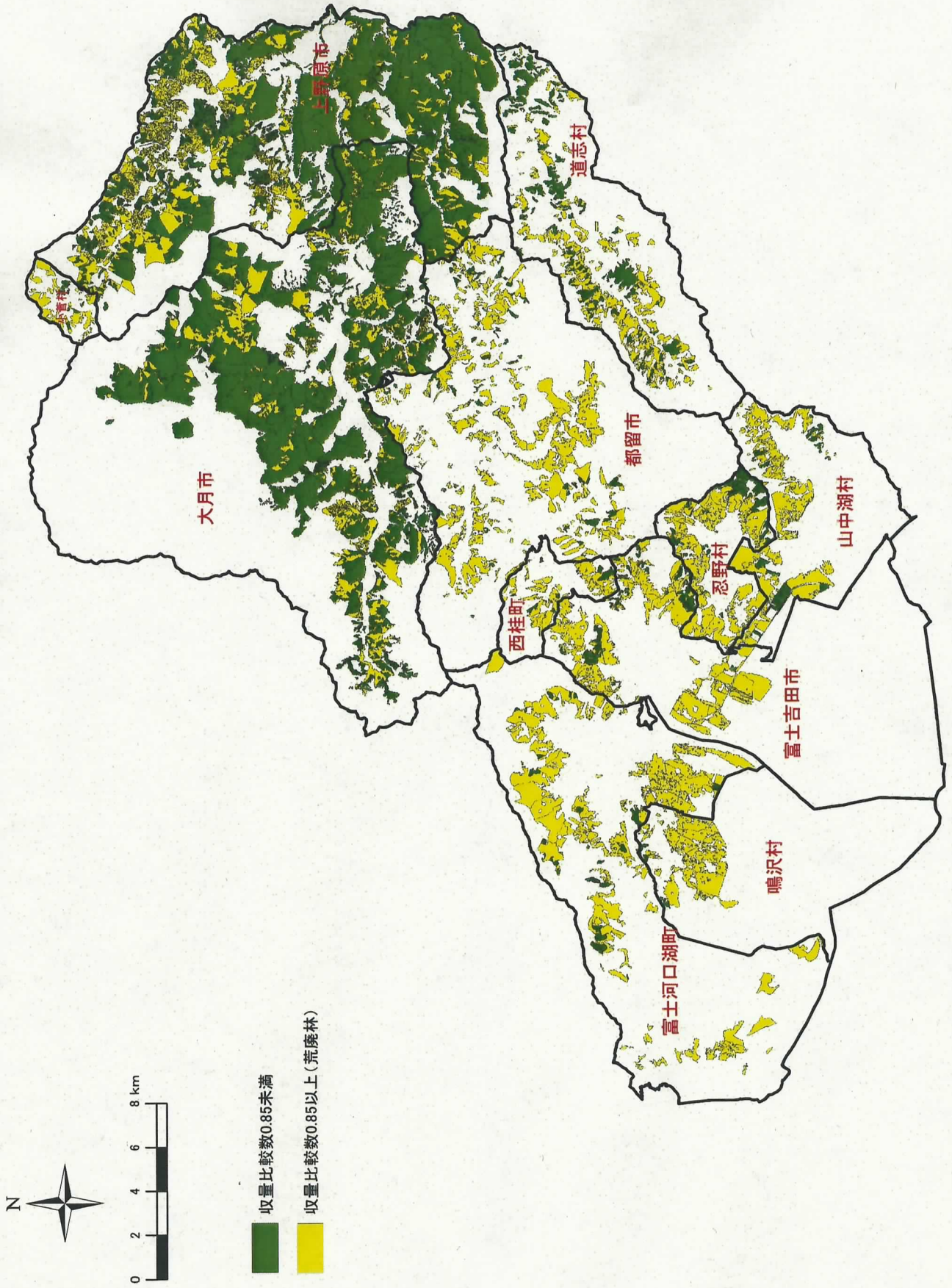
※1 端数処理の関係で合計は一致しない。

※2 鳴沢村、小菅村については、桂川・相模川流域以外の地域を除外している。

※3 私有林のうちの人工林について、「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」に位置づけた「相模川水系流域環境共同調査」の一環として現況調査を実施した。非常に混みあっている森林(収量比数0.85以上の森林)を荒廃林とした。

収量比数とは、森林の混み具合を表す指標で、0から1の間で表される。1に近いほど森林が混んでいることを表す。

山梨県内桂川流域における私有林（人工林）現況調査結果



山梨県内桂川流域 生活排水処理方法実態調査

「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」に位置づけた「相模川水系流域環境共同調査」の一環として実施した、生活排水処理方法実態調査の結果は次のとおり。

1 汲み取り施設及び単独・合併処理浄化槽の設置状況調査結果(平成19年3月31日現在)

(単位：基数)

市町村名	汲み取り施設	単独処理浄化槽	合併処理浄化槽
富士吉田市	1, 446	5, 444	1, 570
都留市	967	2, 666	1, 359
大月市	1, 538	3, 487	903
上野原市	1, 520	2, 068	782
道志村	56	39	200
西桂町	191	192	159
忍野村	93	731	258
山中湖村	0	2, 322	764
鳴沢村	35	1, 692	1, 294
富士河口湖町	1, 558	3, 459	1, 057
小菅村	0	1	1
合計	7, 404	22, 101	8, 347

- ・ 汲み取り施設の設置状況調査結果は、市町村データに基づく。
- ・ 単独処理浄化槽及び合併処理浄化槽の設置状況調査結果は山梨県データに基づく。
- ・ データは下水道計画区域内と下水道計画区域外の合計値。

2 公共下水道の水洗化率(接続率)(※1)調査結果(平成19年3月31日現在)

市町村名	水洗化率(接続率)
富士吉田市	83.5%
都留市	48.5%
大月市	37.7%
上野原市	60.6%
道志村	(下水道計画なし)
西桂町	54.3%
忍野村	81.5%
山中湖村	80.2%
鳴沢村	(下水道計画なし)
富士河口湖町	85.4%
小菅村(※2)	100.0%
合計	73.6%

※1 水洗化率(接続率)とは、水洗化人口(下水道処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水を下水道で処理している人口)を下水道処理区域内人口で除したものとした。

※2 小菅村(本調査の対象地区は長作地区のみ)は公共下水道ではなく農業集落排水施設で整備している。

- ・ 公共下水道の水洗化率(接続率)調査結果は市町村データに基づく。

生活排水処理施設整備目標等(桂川流域10市町村)

○ 衛生処理人口 = 下水道 + 農業集落排水処理施設 + 合併処理浄化槽 + コミュニティプラント + 小規模集合排水処理施設

○ 生活排水クリーン処理率 = 衛生処理人口 ÷ 総人口

平成20年度生活排水処理施設整備の実施状況

(平成21年3月31日現在)

市町村名	総人口	下水道 ※1	農業集落 排水処理 施設	合併処理 浄化槽 ※2	コミュニ ティ プラント	小規模 集合排水 処理施設	衛生処理 人口	生活排水 クリーン 処理率
富士吉田市	52,636	20,774		8,782			29,556	56.2%
都留市	32,255	7,922		10,603			18,525	57.4%
大月市	29,517	4,128		6,764			10,892	36.9%
上野原市	27,248	11,167		3,311			14,478	53.1%
道志村	1,992			1,485			1,485	74.5%
西桂町	4,817	1,684		893			2,577	53.5%
忍野村	8,811	5,495		2,721			8,216	93.2%
山中湖村	5,918	4,190		864			5,054	85.4%
鳴沢村	3,139			1,382			1,382	44.0%
富士河口湖町	25,892	17,528		3,222	121		20,871	80.6%
	192,225	72,888 64%	0	40,027 35%	121	0	113,036	58.8%
							(目標:58.3%)	
合計	867,122	510,408	16,673	114,425	7,280	56	648,842	74.8%

(桂川流域 計)

(山梨全県 計)

※1 下水道人口は、下水道処理区域内(下水道整備済み地域内)の人口(未接続人口を含む)。

※2 合併処理浄化槽人口は、下水道処理区域外(下水道整備済み地域外)の合併処理浄化槽人口。

平成25年度生活排水処理施設整備目標

市町村名	総人口	下水道 ※1	農業集落 排水処理 施設	合併処理 浄化槽 ※2	コミュニ ティ プラント	小規模 集合排水 処理施設	衛生処理 人口	生活排水 クリーン 処理率
富士吉田市	53,047	22,128	0	11,154	0	0	33,282	62.7%
都留市	32,487	10,314	0	11,613	0	0	21,927	67.5%
大月市	29,987	5,721	0	7,561	0	0	13,282	44.3%
上野原市	27,573	11,987	0	4,295	0	0	16,282	59.1%
道志村	2,029	0	0	2,029	0	0	2,029	100.0%
西桂町	4,857	2,389	0	760	0	0	3,149	64.8%
忍野村	8,771	5,700	0	2,180	0	0	7,880	89.8%
山中湖村	5,945	4,585	0	750	0	0	5,335	89.7%
鳴沢村	3,164	0	0	1,915	0	0	1,915	60.5%
富士河口湖町	25,770	19,442	0	3,205	156	0	22,803	88.5%
	193,630	82,266 64%	0	45,462 36%	156	0	127,884	66.0%
							(目標:66.0%)	
合計	871,481	558,875	17,664	133,847	7,201	59	717,646	82.3%

(桂川流域 計)

(山梨全県 計)

※1 下水道人口は、下水道処理区域内(下水道整備済み地域内)の人口(未接続人口を含む)。

※2 合併処理浄化槽人口は、下水道処理区域外(下水道整備済み地域外)の合併処理浄化槽人口。